

活動テーマ

若者 Z 世代が好む柑橘製品の開発

ときがわ町大附地区 十文字学園女子大学

1 活動目的

「若者 Z 世代が好む柑橘製品」をコンセプトとしてときがわ町の特産柑橘である「福みかん」を使った清涼飲料水、ジェラート、菓子などの開発を行い、特徴や魅力をより多くの人に知ってもらうこと、さらに高齢化が進む柑橘農園の収穫作業の手伝いや地域の祭りに参加することで、柑橘産業の振興や地域活性化に貢献することを活動目的とした。

2 活動地域の現状

ときがわ町の人口は 10,207 人(令和7年2月1日時点)であり昨年から約 200 人減少しており、過疎化が進んでいる。また、柑橘農園などにおいても農業事業者の高齢化が進み、後継者が見つからないため、柑橘産業が衰退していることが深刻な課題となっている。

3 活動内容

本学学生らは、未利用資源であった「福みかん」を有効活用し、制作した食品を広く PR することで地域に貢献することを決定した。福みかんを使い若者 Z 世代に向けた柑橘製品を開発することで地域を訪れた多くの方にときがわ町と福みかんを知ってもらうことを考え行動した。本学学生とときがわ町の地域の方々と協同で「福みかん」のジェラートや菓子を開発した。商品を開発するにあたって定期的に意見交換会を実施し、福みかんの収穫、商品企画、加工、販売まで一気通貫で行った。さらに、「木のくに ときがわ祭り」にキッチンカーで参加するなど積極的に地域活動を行うことで地域の方と友好的な関係を築くことができた。

4 成果

テーマであった「若者 Z 世代が好む柑橘製品の開発」については、福みかんジェラート(商品名:フォーチュンオレンジジェラート)、ジュース、ウィークエンドシトロン、琥珀糖、グミ、白玉などを開発した。完成した商品は2月2日のあさか産業フェア、2月5日の埼玉県農商工連携フェア、2月8日の新座餅つき大会などに出品し、ときがわ町の魅力や福みかんの認知度の向上に努めた。福みかんパウダーを活用したスイーツがよみうりランドのバレンタインデー企画として採用され、期間限定でスイーツ販売を行った。本支援隊活動で得られた商品開発と販売活動の知見と経験をビジネスモデルとして考案し、埼玉りそな銀行主催のビジネスアイデアコンテストで応募したところ、ファイナリスト 8 組まで進出し、最終的には「大和リース賞」を受賞することができた。今後も開発した商品を学内の売店、ときがわ町のコンビニエンスストア、埼玉県内の店舗（川越など）で販売し、ときがわ町の広報活動と福みかんの魅力発信を続けていく予定である。

5 課題

福みかんの収穫には、多くの人数が必要であり、今後も製品の販売を継続的に行っていくには、大学生と一部の町民による収穫だけでは限界がある。また、福みかんは酷暑や害虫などにより毎年の収穫量が異なるため、生産管理が難しい。ときがわ町の柑橘産業の復興に向けて協力してくれる方々を集めて、衰退を食い止めることが今後の課題である。

6 次年度以降の計画

次年度は、本活動の最終年度であり、福みかんを活用した商品レシピの開発を行い、地域の洋菓子店などにレギュラー商品として置いてもらえるようにしたい。また、ときがわ町の小中学校とも交流し、ときがわ町にしかない福みかんの魅力をお子たちにも知ってもらい食育活動も進めていきたい。

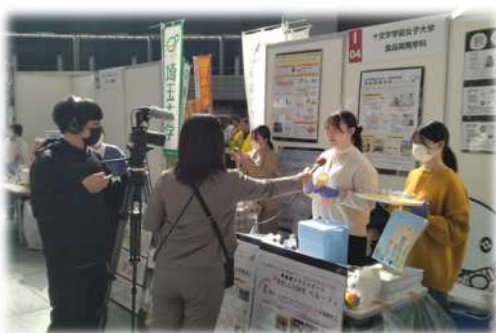
以上



ときがわ町大附中央会館で「若者 Z 世代が好む柑橘製品」をコンセプトとした活動成果報告会、グループワークを実施（2024 年 9 月）



福みかんの収穫を実施（左）、木のくに ときがわ祭りに出店（右）（2024 年 11 月）



埼玉県農商工連携フェアに出店（左）、よみうりランドのスイーツに採用（中央）
埼玉りそな ビジネスアイデアコンテストで受賞（右）（2025 年 2～3 月）